

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600062		
法人名	社会福祉法人 和江会		
事業所名	グループホーム わがの里		
所在地	〒024-0073 岩手県北上市下江釣子11-2-17		
自己評価作成日	令和7年10月7日	評価結果市町村受理日	令和7年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・毎月の職員会議で利用者へのよりよい支援方法を話し合っている。
- ・楽しみを持って過ごして頂くために趣味を行って頂いたり、おやつを作ったり季節を感じてもらうためのドライブや外食に行っている。
- ・訪問診療や訪問介護や訪問歯科と協力し健康管理に努めている。
- ・入居前の生活習慣に少しでも近づくように入浴は15:30から行っている。
- ・毎月、家族へ連絡票と日々の様子の写真を送付している。
- ・移動販売車を活用し、職員と一緒に利用者がおやつを選んで買うことができる。
- ・AEDを設置した。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田園地帯に囲まれた穏やかな住宅地の中に位置し、利用者が落ち着いて過ごせる環境にある。運営法人は保育園や特別養護老人ホーム、デイサービスなども展開し、保育園児との交流や「すずカフェ」の実施、職員による地域のごみ拾いなど、地域交流、地域貢献に取り組んでいる。入浴時間を15時30分からとするなど利用者の生活習慣や生活リズムを大切に、個別ケアに配慮した支援を行っている。訪問診療、訪問看護により日常の相談体制など、医療との連携、AEDの設置など健康面、安全管理にも配慮がなされ、看取りを経験している職員が多いため、本人、家族の安心感につながっている。毎月、家族には写真付きの連絡票を通して丁寧な情報提供に努めている。面会制限は特になく、自由な面会や外出が可能であり、季節に応じたドライブ(花見・新緑・紅葉)や近隣への外食など、利用者の希望を取り入れた外出支援が行われている。献立にも利用者の「食べたいもの」が反映され、利用者一人ひとりの嗜好や生活歴に合わせた食支援を実践し、日々の暮らしの中に本人の思いを大切にしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年10月28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「いつも笑顔で安心して暮らせる日々を目指して」 ・まごころこめて生活のお手伝いをします。 ・家族のようにいつもそばにいます。 ・利用者に信頼していただけるよう支援に努めている。	事業所開設時に作った理念をホールに掲示し、いつでも目につくようにしている。職員に周知、共有するため年度初めに理念を振り返って確認し、異動してきた職員にはその都度説明している。毎月の職員会議で支援方法等を協議し、周辺症状が軽減して穏やかに過ごせるよう支援している。今後は、理念見直しの必要性について検討してみたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・前年度10月ハロウィンに保育園児の訪問があり、お菓子を配り利用者で交流した。 ・開所記念の際、近隣の方々(7軒)に赤飯を配り挨拶をしている。 ・6月に相談会すずカフェを実施、参加した地域の方(11名)にGHの担当者が講演を行った。	今夏には、法人の保育園の運動会を見学し、今月末に、ハロウィンで保育園児が訪問して交流してくれる予定となっている。5月の開所記念日にはご近所に手作りの赤飯を利用者と一緒に届けている。また、法人の広報誌は地域に回覧したり関係機関に配置している。法人として年4回、地域の方を対象にすずカフェ相談会を開催し、認知症に関わる講演や口腔体操、福祉用具の説明のほか、事業所の見学もしていただき理解を深めている。地域の方からカボチャや柿などの差入れをいただき活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・入居申し込み時等に家族からの認知症の方への対応等の相談を受けている。 ・法人全体で地域のごみ拾いを年4回程行っている。 ・法人全体で年4回相談会すずカフェを実施している。 ・今年度よりグループホームにAEDを設置した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・2ヶ月ごとに会議を開催している。 ・利用者の生活の様子を報告し、委員(7名)の方達からも質問や意見をいただいている。 ・行事や日中の様子の写真を添付し報告している。 ・スズカフェの様子や事故の報告、グループホームの施設見学を行っている。	コロナ禍以降、昨年対面による会議を2ヶ月毎に開催している。委員として、自治会長、民生委員、地域住民のほか、地域包括支援センターと市担当課が交互に参加している。利用者の入居状況、活動の様子やヒヤリハット、すずカフェについて報告し、意見交換している。今年度第3回の開催時には、事業所の見学もいただいた。年度末には事業所年間目標の達成状況の報告も予定している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加していただいている。 ・市担当者とは密に連絡を取っていない。	運営推進会議に地域包括支援センターや市職員が参加し、事業所の状況について理解をいただいている。介護保険の手続き等は市役所のオンラインサービスを活用し、市主催の研修・会議などには、必要に応じて参加している。入居希望者の動向、すずカフェの実施等についても地域包括支援センターと情報交換、連携している。外部に金銭管理を依頼している利用者があり、担当者が来所している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束の指針に基づき対応中。 ・身体拘束ゼロを目指して等の資料を職員に配布したり職員会議の際に説明したりしている。	各事業所長が出席し法人本部主催が毎月開催する身体拘束廃止委員会で、事業所の取り組み状況を報告している。同日に虐待防止、感染症対策、リスクマネジメント等の会議も実施している。委員会の資料を毎月の職員会議で、職員に伝達研修している。定期的に身体拘束や虐待、行動制限、不適切な対応がないかを確認しながら、一方で背面・床下センサーによる安全対策を実施している。玄関は施錠せず、自由に出入りできるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・職員会議で説明したり資料を配布している。 日々の業務の中で話し合うこともある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・研修会に参加したり、職員会議で説明したり資料を配布している。 ・成年後見人を利用している利用者が2名いる。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約等は、入居前に説明を行い、署名押印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・運営推進会議に利用者家族も参加していただいております。意見や要望をいただいております。 ・面会時に家族の意見や要望を聞いています。 ・施設サービス計画書の説明時に要望を聞いています。	毎月利用者の担当職員、ケアマネジャーから、連絡票として行事や生活状況、健康状況等を写真付きで家族にお知らせしている。運営推進会議に参加される家族からも意見が出されている。面会や預かり金を届けに来た際や、介護計画の見直しに併せて意見や要望を伺うようにし、必要に応じて入居前の生活状況等の把握にも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・毎月の職員会議には、ほぼ全員が参加し話し合いをしている。	毎月開催している職員会議で意見、要望を把握している。暑さ対策としてエアコンの各居室への設置のほか、日中に実施している夜間想定避難訓練の時間帯変更の提案があり、18時30分から見直すなど改善に取り組んでいる。また、年2回(6月、12月)人事考課を主目的とした所長、管理者との面談では、就業時間や研修、資格取得等の希望等を確認している。管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・6月と12月に人事考課を行い、職員の要望などを確認している。また職場環境・条件等の相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・参加していない研修、担当している係、役職に関係する研修を選び参加していただいている。研修参加後に職員会議で復命研修を行っている。		

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・主に外部研修会に行った際に交流し意見交換をすることが多い。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・入居前に本人から聞ける場合は、生活の様子などお話を伺っている。また、どのような所に入所するか伝え、不安な事や要望を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・入居前に対面もしくは電話で家族の要望等を聞いている。 ・要望があれば施設内を見学できる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・入居前の本人や家族との話し合いの中で必要な支援を考え、施設サービス計画書に反映させている。必要の際は訪問診療や訪問看護や訪問歯科の利用ができる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・できるような家事を行っていただいたり、花を園庭やプランターと一緒に植えたりしている。 ・梅干し、干し柿、おはぎ作りなどを職員と一緒にやっている。 ・季節を感じてもらえるように季節毎にドライブを企画している。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム わがの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・面会時に生活の様子や本人の思いを伝えたり、家族からの意見を伺っている。 ・敬老会の際に家族から利用者へのお祝いの手紙をいただき読み上げている。 ・毎月1回、家族に連絡票と生活の様子写真を送付している。 ・出来るだけ面会していただけるよう家族に声をかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・家族、親類、知人に面会に来ていただいている。 ・ドライブの際に入居前に住んでいた所など馴染みのある地域をまわっている。	家族、親類のほか近所の知人の面会もある。家族付き添いでドライブや外食、親戚巡り、墓参りに出掛けられる方もいる。2か月に1回程度移動図書館が来所し利用している。月2回ほど移動販売車(とくし丸)が立ち寄り、おやつなどの買い物を楽しんだり、近所のイオンなどでの外食も楽しみとしている。2、3か月毎に訪問理美容師が来所し利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・利用者同士の相性を見ながら日々席替えをしている。 ・全員でミニ運動会やドライブや外食などの行事を楽しむ機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・同法人の施設に移動した方は、様子を見に行くこともできる。 ・退居後も家族の相談等に応じることが出来る。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・本人に聞ける場合は本人の思いを聞いている。困難な場合は家族に聞き対応している。	日々の会話や関りから利用者の思いや意向、希望等を把握し職員で共有している。「漬物をつけたい」、「編み物をしたい」、「山菜採りに行きたい」、「しそ巻きを作りたい」、「帰宅したい」等、種々の希望について把握し、意思表示が難しい方については、家族から好みや得意とすること、入居前の状況などを聴き取りし、職員で共有して支援の参考にしている。	
----	-----	---	--	--	--

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入居前に本人や家族から伺っているが、入所後も入居前に聞けなかった事など本人や家族から伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・業務日誌に日々様子を記録し状態の把握に努めている。朝・夕のミーティング、グループホーム会議で情報の共有に努めている。 ・毎月の職員会議で利用者のよりよい支援方法を話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・毎月の職員会議でモニタリング課題と支援方法について話し合っている。また訪問診療、訪問看護や訪問歯科で出た意見も反映させている。 ・面会時の家族の意見も取り入れるよう努めている。	介護計画は、短期目標を6か月、長期目標を12か月とし、期間内に変更を要する場合には、柔軟に見直し変更している。全職員で3か月を目途にモニタリングを行いサービス担当者会議で共有している。家族の意見、要望は随時聴き取りしながら介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・ケース記録を活用し朝・夕の申し送りによって生活の様子を共有している。 ・毎月の会議で利用者の支援方法を話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・訪問診療(月2回程度)、訪問看護(週1回)、訪問歯科(希望時)を利用している。 ・必要時は通院時に付き添っている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム わがの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・市の移動図書館を利用している。 ・訪問理美容(日本理美容福祉協会いわて中央センター)を利用し本人の希望を聞きながら散髪を行っている。 ・移動販売車を活用し職員と一緒に利用者が食べたいおやつを選び購入している。 ・イオンでの外食。 ・近隣の食堂などからの食べたいお弁当の購入。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問診療(月2回程度)で利用者の状態を報告し健康状態を診ていただいている。 ・他の病院に通院希望や場合は職員や家族が付添い通院している。 	利用者全員がを訪問診療(主治医)を受診し、訪問歯科により義歯の作製や調整等も行っている。訪問診療は月2回、訪問看護は週1回来所しており、受診結果は当日職員間で共有し、家族にも毎月報告するようにしている。急な体調不良時には訪問看護師に相談し、適切に対応している。訪問診療以外の専門科を受診の際は、家族や職員が付添い対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護(週1回)で利用者の状態を報告している。健康管理についてアドバイスをいただいている。 ・変化等があれば主治医に報告していただいている。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時は病院にて担当者と対面し情報提供をしている。入院中は電話で情報を交換している。退院時は迎え時に対面や看護サマリーで情報を得ている。 		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム わがの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・看取り対応はグループホームで出来る事と出来ない事を説明し家族や本人が希望すれば行っている。看取り対応時は訪問診療、訪問看護と協力し対応している。	入居契約時に重度化への対応について家族に説明している。入浴、食事摂取の状況や身体機能、ADL等から判断し、家族に状況を説明して特養施設等を紹介している。看取りを希望される方には訪問診療、訪問看護と連携し対応している。事業所のほとんどの職員は看取りを経験している。看取りに関わる基本方針に沿った研修を行っており、看取り後は職員会議で振り返り、職員のケアを行い、希望の家族にはエンゼルケアにも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・緊急マニュアルを作成している。 ・定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・定期的に火災の避難訓練を行っている。(今年度は10月に薄暮時に火災の避難訓練を行う予定) ・地域との協力体制はない。	事業所は、ハザードマップ対象外の地域に位置しており、地域の福祉避難所に指定されている。利用者の食事やケア用品を備蓄し、法人本部では発電機、暖房器具を備えている。定期的に避難訓練を行っており、これまで夜間想定訓練を日中に行ってきたが、実態に即応した訓練実施の提案があり、10月末日に薄暮時の避難訓練を実施する予定である。地域住民と連携した避難訓練は実施していない。災害発生時には法人本部や特養施設からの協力がある。	災害時の迅速かつ効果的な避難誘導体制が確保されるよう、法人の地域防災(災害)協力隊による応援協力と併せ、地域住民への避難時の協力、連携の在り方について検討し、地域との連携が一層強化されるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・介助や支援の場面において、本人に希望を聞きながら行っている。 ・着替えの際など他の利用者から見えないように部屋や脱衣場などの個室で行うようにしている。	排泄や入浴等、異性介助の場面では、事前に確認して対応し、拒否がある場合には人、時間を変える等の対応をしている。身嗜み、言葉遣い、不適切ケア、挨拶等の自己チェックを行い、接遇研修も取り入れて利用者の尊厳を守る取り組みを行っている。洗濯物干し、食器拭き等の手伝いには、その都度感謝を伝えている。就床、起床、食事時間等、昼夜の生活リズムに影響がない程度に一人ひとりのペースで過ごしてもらおう心掛けています。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム わがの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食べたい物を聞いて献立に入れたりや弁当を購入している。 ・服を選べる人は自分んで選んで着替えている。 ・利用者の思いをゆっくりと聞くようにしている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・日課表を基準としているが、昼夜逆転や健康状態に悪影響を及ぼさない程度に起床、就寝や午睡時間は本人のペースに合わせている。 ・食事のペースも早い人もいれば遅い人もいるがその方に合わせるよう努めている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・服を選べる人は自分んで選んで着替えていた ・訪問理美容を利用し本人の希望に近い髪形にしている。 ・希望の方は白髪染めを行っている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食べたいもの間きを献立作成に反映させている。 ・利用者とおはぎ等のおやつや梅干しやしそ巻き作り等を行っている。 ・テーブルを拭いたり、食器などを拭いている。 ・出来る方は下膳している。 	<p>毎食とも職員が調理して提供している。「何でも美味しい」と評判が良い。食前の口腔体操で誤嚥対策を行っている。行事や誕生日には事前に希望を聴き取り献立に反映させている。家族や地域住民、職員から野菜、果物等の差入れがあり、プランターで育てている野菜類も食材として利用している。ドライブ先で弁当を食べたり、イオンや食堂などでの外食の機会も取り入れ、利用者の楽しみとなっている。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・献立作成は担当職員が立てている。 ・食事摂取量をチェックし記録している。 ・職員会議などで利用者それぞれの食べ方やむせる等の情報を共有し同一の支援を行う様にしている。 		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム わがの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、歯磨きやうがい舌の洗浄を行っている、入れ歯も出来るだけ本人に洗ってもらっている。 ・夜間は入れ歯を外し保管している。入れ歯は週2回洗浄剤で消毒している。 ・訪問歯科利用可能。 ・月1回、歯科衛生士が職員へ口腔ケアの指導している。 		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄記録用紙に記録し排泄のパターンを推測し声掛けをし促したり、トイレ誘導している。 	<ul style="list-style-type: none"> 排泄記録表に沿って声掛け、誘導を行っている。布パンツ、パット使用が4人、紙パンツ、パット使用が5人でオムツの使用はない。失禁対策として夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。失敗した場合には、失禁したことより排泄したことを誉めるようにしている。また、排便体操や食物繊維、水分摂取を取り入れ、排便コントロールにも配慮している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な水分摂取を促している。 ・便秘の方にはオリゴ糖や食物繊維の摂取を促している。 ・ラジオ体操や歩行など運動を促している。(今年から排便体操を取り入れている) ・排便の状況は訪問診療や訪問看護の来所時に報告している。 ・便が2、3日出ないと下剤を服用している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて夕方15:30～入浴している。 ・1人週3回入浴できるようにしている。 ・本人の拒否があれば、次の日に再度入浴を誘ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 月曜日から土曜日の夕方からを入浴時間とし、出来るだけ自宅で生活していた状況を意識している。職員と一対一で温泉の話などの会話を交わしながら入浴を楽しんでいる。入浴が苦手な方には、タイミングを見計らいながら声かけを行い、無理なく入浴を促している。また、ゆず湯なども提供している。皮膚疾患のある方は2日に1回のペースでの入浴としている。 	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・室温や掛け物を調整し安眠に繋げるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・処方箋をすぐ見れるようにファイルに閉じている。 ・内服薬の変更時は、薬の効能や用法を申し送り情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・洗濯物・タオルたたみ、食器拭きなどを、お願いしている。 ・歌、読書、編み物の好きな事を行う時間がある。 ・職員と一緒に園庭やプランターに花を植えたりしている。 ・梅干し作りやお菓子作り等を一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・花見、新緑、紅葉など季節に合わせドライブしている。 ・天気の良い日は近所へ職員と散歩している。 ・弁当を購入してきて食べたり、イオンで外食している。	日常的には事業所敷地内を自由に散策し、自然や季節の変化を感じながら過ごしている。敷地内に桜の木があり桜の時期には見学に行ったり、法人内デイサービス事業所の車両を使い、市内外の観光地や道の駅などに利用者全員でドライブに出掛ける機会を作っている。季節に応じて夏油方面、展勝地方面に出掛け、春の花見や秋の紅葉を楽しんでいる。家族からの申し出で外出される方もおり、満足につながる支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・家族より預かり金をいただき、希望や必要に応じて使用出来る。		

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・利用者が電話を希望した際は、家族に了解を得て電話している。 ・家族からののがきや手紙は本人に渡し読んでもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・ホールや玄関などにレクで作成した作品や普段の様子や行事等の写真を展示している。 ・ホールやトイレなど毎日掃除し清潔に努めている。	ホール、廊下にエアコン、空気清浄機、床暖房が設置され、夏期は居室前に扇風機を使用し空調を管理している。食卓テーブルは、食事や活動場面に応じて配置を変えている。トイレ3カ所、洗面所は2カ所にある。壁面には季節の創作作品が掲示されている。大型の窓からは陽当りもよくウッドデッキに出て日光浴を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・食堂のソファやテーブル席で過ごし時々席を交換している。 ・自分で席を移動し過ごしている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・希望する方はテレビ、本人や家族の写真、位牌等を居室に置いている。 ・居室にエアコンがない為、扇風機で室温が低すぎたり高すぎたりしないよう努めている。	居室にはエアコンが設置されていないため、夏期は、扇風機、窓に簾を立て、暑さ対策をした。ベッド、クローゼットが備え付けとなっており、本人の希望でテレビや誕生日カード、家族の写真、位牌など利用者に馴染みのあるが配置されている。シーツ交換や床拭きは利用者と一緒にいき、日常生活参加を促している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・トイレと表示し分かるようにしている。 ・施設内は手すりを設置し、歩行支援をしている。また、浴室にも手すりを設置している。		